

[要旨]

## イノベーション・エコシステムと地域・専門職労働市場 ——米国東部ボストン地区の事例——

西野 史子  
半澤 誠司

本稿の目的は、米国東部ボストン地区を事例とし、イノベーション・エコシステムの地域的特徴と、地域・専門職労働市場の果たす役割を明らかにすることである。ルート128号線を中心に隆盛を誇ったボストンは、1980年代の停滞期を経て2010年以降にバイオ産業の世界的なイノベーションの拠点となった。本稿で明らかにする第一の研究課題は、どのようにしてボストンが新たなイノベーション拠点となったか。第二の研究課題は、ボストンにおけるイノベーション・エコシステムはどのような仕組みであり、その特徴とは何か。公表資料やインタビュー調査・現地調査を元に、地域・専門職労働市場の観点を加味して検討する。

第一の研究課題について、ボストンの新たなエコシステムはルート128号線とは異なり、MITケンダルスクエアを中心とした非常に狭いエリアで構築された。大学の科学者によるバイオテクノロジーの起業事例が蓄積したこと、科学案件への投資という特徴的なVCの登場が重要な画期となった。さらに、地域一帯の再開発に加え、製薬業界のパラダイム変化が影響したことが、強固なエコシステムの構築を後押しした。

第二の研究課題について、ボストンのイノベーション・エコシステムを支えるステークホルダーは、大学の研究者、起業家、投資家、大企業、政府およびインキュベーターやアクセラレータなどの起業支援組織であり、それらが緊密に連携している点が重要である。緊密な連携を促進する場として、CICなどの特徴的なインキュベーション施設がある。また、研究者から起業家へそして研究者からVCへという移動が極めて重要である。

ボストンの特徴は、人的流動性がありながら半ばクローズドな地域的・専門職ネットワークがあり、信頼関係で結ばれている点である。この特徴と、製薬やハードサイエンスといった技術分野に相補性があったと考えられる。